

第187回（平成29年7月9日施行）

1 級工業簿記

第1問 従来通り「原価計算基準」の内容から出題しました。単に「原価計算基準」を丸暗記するのではなく、制度としての原価計算基本概念を中心に理解するよう努めてください。今後は、簡単な計算問題や○×問題などの出題も可能性としてあるでしょう。

1. 「原価計算基準」二からの出題です。社会制度の一環としての原価計算の意義をしっかりと認識できているかを問うています。
2. 「原価計算基準」三の(二)からの出題です。給付という用語を正しく認識できているかを問うています。
3. 「原価計算基準」四の(一)からの出題です。標準原価の概念、またそれが持つそもそもの性質や用途を正しく理解しているかを問うています。

第2問 製造業における仕訳の問題です。すべて過去問題を参考にしています。

1. 材料の消費額を求める問題です。主要材料の消費額＝月初分(600個×@¥2,420)＋当月分(2,400個×@¥2,380)＝¥7,164,000
2. 予定賃率を用いた直接労務費の振替えの後で賃率差異を計上する仕訳です。予定消費額から実際消費額を差し引くとマイナスになるため、不利差異(借方差異)になります。
3. 第2製造部門の配賦差異を、予定と実際を比較して計算します。この場合、プラスになるため、有利差異(貸方差異)になります。
4. 組間接費の¥2,210,000をA,B組にそれぞれ40%と60%の割合で按分する。
5. 作業くずの評価額をA組仕掛品から差し引くことになる。
6. 売り上げたものが返品されたわけではないので、売上勘定(借方)と売掛金勘定(貸方)で処理する。

第3問 比較的ベーシックな総合原価計算の問題です。先入先出法によって月末仕掛品を評価する点に注意。各種総合原価計算の基礎になるような問題なので、しっかり理解する必要があります。とってください。

1. 前月繰越(月初仕掛品)＝材料費¥63,200＋加工費¥48,500＝¥111,700
2. 材料＝当月製造費用¥742,500
3. 諸口(加工費)＝当月製造費用¥1,078,000
4. 次月繰越(月末仕掛品の評価額)
月末仕掛品の原価を先入先出法によって求めると、以下の通りです。
 - ① 材料費＝¥742,500×600kg/5,500kg＝¥81,000
 - ② 加工費＝¥1,078,000×300kg/5,500kg＝¥58,800
 - ③ 月末仕掛品(次月繰越)＝¥81,000＋¥58,800＝¥139,800

5. 製品 = ¥1,932,200 - 月末仕掛品 ¥139,800 - 副産物評価額 ¥32,000 = ¥1,760,400

6. 前月繰越(翌月の月初仕掛品) = 当月末仕掛品 ¥139,800

第4問

本問は個別原価計算制度の問題です。基本的な仕訳を含む、原価計算、工業簿記の構造を理解しているかを問う問題になっています。予定配賦を行っている場合の差異の処理や、勘定の機構の中での各金額の流れが重要な論点となります。また、本問では完全受注生産のような状況を想定しており、完成した製品はすぐさま顧客に引き渡されるために、製品勘定は設けない形になっています。